

2004新年例会 開催

顧客ニーズに応え、 ソリューション能力を高めよう



郷司会長新年挨拶

大分県情報サービス産業協会平成16年新年例会が、1月28日15時30分から、トキハ会館で60余名が出席し盛大に開催されました。

はじめに郷司潔会長から新年にあたってのご挨拶がありました。

「勝ち組」より「価値組」を目指す

新しい年を迎えるたびに気になるのは、やはり景気の問題です。いろいろな指標は、よいもの悪いものがありますが、いずれにせよ大企業や基幹産業がよくならなければ、我々中小企業はよくありません。最近では株式市場もやや回復基調で、円高には多少ぶれてはいますが、今年あたりは輸出産業を中心によい決算をするのではないかと考えられますので少し期待をしているところです。

さて、この一年を振り返ってみますと、世の中はいろいろありましたが、情報化だけは着実に進んだ一年だったと思います。企業、行政それに個人の情報化は、あらゆる面で進みました。我々の情報産業の売上は対前年比マイナスで推移しましたが、今後の動向を予測する業界のDI値を見ますと決して悪くなく、売上高の将来見通しも雇用判断も高い水準にあり、他産業に比べればまずまずの環境にあると言ってよいと思います。

政府のe-Japan構想も着実に実行に移されており、大分県でも昨年「豊の国ハイパーネットワーク」が完成し、10月から電子県庁がスタート

します。

また、特に今年は市町村合併のリミットの年です。我々にとって、今年は行政システムの構築作業に本格的に取り組まなければならない年になるものと思われます。また、インターネットやブロードバンド、ユビキタス等々の新しい技術をベースにした企業の情報化や個人の情報化が一段と進むことが予想されます。

こういった状況を展望しますと、我々にはまだまだ市場がたくさん残されており、今後ともこの市場開拓に向けて積極的に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

しかしながら、その場合の問題は我々の受入体制であり、従来と同じような仕事の仕方をしていただけでは、これからのユーザニーズには到底応じられません。今、ユーザが我々に求めているのは、従来の単なる技術力やシステム開発力ではなく、新しい技術をベースにした「ソリューション能力」です。ユーザの皆さんは、我々にITコーディネータ的な能力を求めており、我々はそのニーズに応じてこそ、真の「価値のある集団」として認められるのではないのでしょうか。

我々が本当の意味で「提案型SE集団」「価値を創り出す集団」になり得るかどうか、これからの勝負だと思います。そのためには、人材の育成こそ最重要の課題ではないのでしょうか。これには時間もお金もかかります。継続は力なりと言いますが、協会としても、引き続いて会員企業のソリューション能力を向上させるための研修活動には力を入れていきたいと考えています。

大分県の情報化は我々情報産業が担っていかなければなりません。我々にはその使命があります。今年もお互いにスクラムを組んで地域の情報化に向けて積極的に取り組んでいきたいと思えます。

「変化の時代に生き残るのは、頭の良いものでもなければ、力の強いものでもない、ただ変化に敏感なものだけが生き残る」、150年前のダーウインの言葉です。今や、まさに変化の時代を迎え

ています。我々もこの変化に取り残されないように、2004年が我々協会にとって輝かしい年になることを祈念して新年のご挨拶とします。

ついで、大分県商工労働観光部長飯田隆俊様および大分県中小企業団体中央会専務理事熊埜御堂様よりご挨拶をいただきました。

引き続き、16時から記念講演として大分市高崎山管理公社小野幸利氏に講演いただきました。（講演内容は2面に掲載しています。）

その後別会場に移り、協会の清水正俊副会長の挨拶、協会顧問の大分県産業創造機構渡辺専務理事の乾杯の音頭で祝賀パーティに入りました。



清水副会長挨拶



大分県産業創造機構渡辺専務理事の
乾杯の音頭



飯田大分県商工労働観光部長来賓挨拶



熊埜御堂大分県中小企業団体中央会
専務理事来賓挨拶



懇親会風景

2004年新年特別講演会

日時：平成16年1月28日
 場所：トキハ会館
 講師：財団法人 大分市高崎山管理公社
 業務課長 小野幸利氏
 演題：「サルから見た人」

高崎山で観察されたサルの生態を、人間の暮らしとの対比という形で、絶妙な口調で語っていただきました。

五感をつかって

今年は申年で、たいへん忙しい新年を迎えました。正月は普段の3倍のお客様で、ほろ酔い気分のお客様もたくさんいましたが、サルはきちんと見分けていますね。人間は、技術を使ってすばやく大量に情報を伝達できるのですが、サルはものを作れません。五感を使ってしか情報を伝えられない。声、匂い、表情、触るとかの体を使ってしか伝えられない。これが人間とサルの社会の違うところで、どっちがよいか。サルは自分の五感で消化して行動を決定し相手を判断する。ですから直感というか鋭い五感を維持し続けていて、そこが人間と違うところです。サルの社会を見ているとそんな気がします。

ボスという呼び名

ボスというのは支配者ではないのです。腕力が優れている、メスを独占している、そういう利益の高い特別のサルじゃありません。群れに長く居る暮らしの長い順番です。群れの中で争わないために、お互いに認識する優劣関係を持っています。森の中ではお互いに近づかないで自由に生きているわけですが、寄せ場という狭い場所に集めて環境変化を与えたので、お互いに争わ

ないためにどうやったらよいかというルールを作ったことが分かります。サル学は森からスタートせずに、餌付けの寄せ場からはじまったので、「群れという社会には、中心に経験の長いオスが居てそれをボス、次を副ボス、三、四、五の幹部ザルと呼んで、その近くにはメスと子どもが居て周辺に若者ザルとか新人ザルがいる。」と説明しました。これは間違っていないのですが、一方森の中には餌が豊富にあるので、どこで餌を探ろうがまったく一緒です。森の中では利益の差は無いのです。そういう意味から、今はボスという表現は適切ではないといわれています。ただ、オスが争わないための社会のメカニズムになっていることは確かです。

時間の観念

メスは喧嘩をします。メスが喧嘩をしても群れの存続を危うくするようなことは無いからです。メスは森の餌だけで生活すれば一生にせいぜい4、5回の出産しかできないのですが、ここで餌をたくさん食べればその倍は産めます。つまりメスにとってここで高いカロリーを採ることは自分の遺伝子を広げるための第一条件です。隣のメスよりも高カロリーの物を採る。そのためには争いもします。しかし、森に帰ればそれぞれの木でゆっくりと子どもと毛繕いしながら、採りたい時に採り、食べたい時に食べる。ここが我々と違うところです。物を作らない、市場を持っていない彼等の暮らし方。その時の自分の生命の維持のために必要最小限の食べ物をゆっくりと採ればよいのです。慌てることも、貯めることも無い、その時生きられることに十分満足しています。私達も時々こういうサルの気持ちになるとゆったりできるのですが、人間厄介なことに死んだ先のことまで考える

能力がある。サルは時間の観念はその瞬間で、きのうのことも、おとといのことも10年先のことも考えていません。

幸せは？

高崎山のサルは、群れという集団の中でお互いに危険を避けながら、五感をフルに使って生きています。私達の社会と大きく違うのは、みんなが同じ経済活動、行動を同じ場所のできる。これが彼等の社会の利点です。家族は常に身を寄せ合ってお互いに温もりを感じながら暮らす。でも私達には、もうサルのように一緒に暮らす環境は戻ってこないでしょう。人もサルも、触れ合うということは一番心地よく感じるものです。私はサルを見ていると、どっちが幸せなのか、これ以上何を求めるのか、もう充分ではないかと感じることもあります。一番大事にしてほしいものは自然です。高崎山、海や山です。我々は太陽をいっぱい浴びた民族ですし、もう一度謙虚に自然に取り組んでもよいのではないかと思います。ぜひ高崎山に足を運んでいただき、ゆっくり毛繕いでも見ていただき、その日一日はゆっくりとサルのテンポに生活のリズムを戻していただけたらと思います。五感を使って。(総務委員会)



大分市高崎山管理公社 小野 幸利氏 講演

平成15年度 第2回 視察研修 ドコモ九州、キューサイ研究所を訪ねて

2月3日8時福岡に向け、郷司会長以下18名で大分駅を出発しました。いつものように大分交通の上杉さんの迷(?)調子で高速を一気に駆け抜け、予定よりも30分早く目的地であるドコモ九州(株)モバイルビュウドコモに到着しました。モバイルビュウドコモは昨年3月に新築された真新しい14階建てのビルで、我々はショールームのある3階に通されました。

ここには第3世代携帯FOMAをはじめとした最新鋭の多様なシステムが展示されており、ビジネスソリューションを最も得意とする我々は積極的にドコモの方に質問を行い、有意義な時間を過ごすことができました。またショールームは法人および企業にだけ開放されており、一般の人は見られないため、我々は大変貴重な体験をしたと思っています。

ドコモ九州(株)での1時間少々の視察の後、博多百年蔵にて昼食をすませ、次の視察に向け移動しました。

乾杯！ キューサイ(株)中央研究所の視察は、主力商品の一気飲みで始まりました。TVCMの「うーん、まずい。もう一杯！」で有名な青汁



ドコモ九州(株)モバイルビュウドコモ
ショールームにて



キューサイ(株)中央研究所にて

は、たしかに一瞬薦踏するほど青臭いのですが、飲んでみますとほのかに甘く抹茶のようで意外とおいしいものでした。これは社員の方によるよるとねらい通りの反応だそうで、お客様にたくさんの類似品の中から商品を選んでもらい、なおかつ、継続して愛用していただくために、このようなインパクトある広告が重要とのお話でした。

もうひとつ大切なことは、信頼であり、原料の野菜ケールは、すべて無農薬・国内産に限定し、製造工程で失われた分のビタミンC以外の添加物を加えず、品質管理を徹底している、とのお話でした。そのため研究所では、栽培地の土壌検査、原料、製品の成分検査や農薬検査を行っているそうです。社員の方々ご自身が毎日飲んで体に良いと実感することからくる自社商品に対する自信が、お話の中からもうかがえて、そのことが成長する力となっているのだと思いました。

最後は、冷たい北風の吹く中ではありましたが、宮地嶽神社に参詣し、節分の豆を土産に今回の視察を終えました。

(企画委員会)

インターネット草創期からWebテクノロジーを見つめて。

MOthers 3714

Now hiring engineers.

ASSOCIANT TECHNOLOGY Inc.

大分・東京・福岡・岐阜
<http://www.associant.jp/>

アソシエント・テクノロジー(株)
 大分本社：大分市東春日町17-20 大分第2ソフィアプラザビル1F
 TEL：097-573-4002 FAX：097-573-4003

平成15年度『技術研究会』発表会開催

基調講演 演題：『ロボットの原点を探る』

講師：日本文理大学工学部 知能機械システム工学科 ^{ひら} ^{こそ} 平社 博之 教授

日時：平成16年2月25日(水) 13:30～17:00 場所：ソフィアホール



発表会風景



平社教授による二足歩行ロボットの実演

技術委員会が主催する平成15年度「技術研究会」の発表会が盛大に開催されました。

この研究会は、毎年会員各社の中堅および若手の技術者が集まって、ソフトウェアの技術研究を共同で行うもので、今年度も3部会を設置し、昨年の6月に募集を行い、7月から各々テーマを決めて実際の研究活動を行ってきました。その成果を論文にまとめ、各部会40分の持ち時間で発表を行いました。

はじめに郷司会長より開会挨拶があり、その中で技術委員会における研究活動が地域のソフトウェア技術の普及向上に大変有意義であるというお話をいただきました。

発表会に先立ち、基調講演を行いました。今年度は日本文理大学工学部知能機械システム工学科の平社(ひらこそ)博之教授に「ロボットの原点を探る」という演題で、ロボットの歴史、現在の技術および未来のロボット活用のお話をいただきました。

紀元前1世紀に作られたヘロンのバックス神殿や、日本のからくり人形などのいわゆる自動人形の時代を経て、コンピュータ制御による産業用ロボットの時代となり、今や二足歩行する人型知能ロボットが登場する時代となったこと、近い将来

には介護現場や人間の近づけない危険な場所で働くロボットが多数登場してくることなどを、分かりやすく解説していただきました。

最後に手作りの二足歩行ロボットの実演を見せていただきました。

寝ている状態から起き上がり、足の裏のローラーで滑るように移動、最後に左右の足を使った二足歩行を行いました。二足歩行を初めて見る人も多く、場内からは歓声が上がりました。

その後、研究発表に移り、JAVA部会、.NET

部会、セキュリティ部会の順で発表を行いました。発表内容はどれもよくまとめられており、興味深い内容が分かりやすく説明されていました。各部会の研究テーマと発表の内容は以下のとおりです。

最後に技術委員会阿南委員長より各部会の代表者に約7ヵ月間の研究活動に対する報奨金を贈呈し、労をねぎらいました。

なお、各部会の論文集は当協会のホームページで公開しております。

研究テーマと発表の要旨

① JAVA部会

テーマ：JAVAと.NET – WebサービスにおけるJAVAと.NETの比較 –

要旨：WebシステムアーキテクチャーとWebサービス試作という観点からJAVAと.NETの比較を行う。

② .NET部会

テーマ：.NETなら – JAVAとの比較 –

要旨：機能や特徴、動向などの多方面からのJAVAとの比較及び、.NET上で開発されたWebアプリをLinux上に移植し、開発の実態調査を行う。

③ セキュリティ部会

テーマ：セキュリティとは何か – 安全性を確立するための技術的ガイドライン –

要旨：ネットワーク上の様々な危険に対する安全性の確保について、ネットワーク構成、ネットワークインフラのセキュリティ、Webアプリのセキュリティおよびモラルの観点からガイドラインを構築する。

「大分地域情報化懇談会」の開催

平成15年12月11日(木) トキハ会館 さくらの間 14:30～17:30

(社)九州・山口経済連合会の主催で、参加者は九経連、大分県、九州総合通信局、九州経済産業局、九州テレコム振興センター、OISA会員14社の総員40名となった。

テーマは大分県におけるIT推進施策、電子政府・電子自治体推進に向けた支援策、情報通信分野に関わる規制改革の推進に向けた支援策の3つに分かれて、九経連から情報通信委員会事業、大分県からIT推進に関わる施策、九州総合通信局から地域情報化施策、九州経済産業局から産業情報化施策、九州テレコム振興センターから情報化の取組み状況がそれぞれ報告された。OISA会員14社からの質問も多く、活発な意見交換が行われた。

「日韓IT技術交流会」の開催

平成15年12月8日(月)

ソフィアホール 14:00～19:30

大分県産業創造機構の主催により、韓国・仁川の情報サービス業界の36社、OISA会員23名の参加のもと開催された。

大分県産業創造機構 渡辺専務理事、(助)仁川情報産業振興院 全院長、OISA郷司会長の挨拶の後、個別交流会、ソフトパーク内企業の視察、懇談会が行われ、両国の情報サービス産業事情の相互理解が深められた。



ISO9001 認証取得

学校見学随時受付中

■ 学科 全日制(2年)

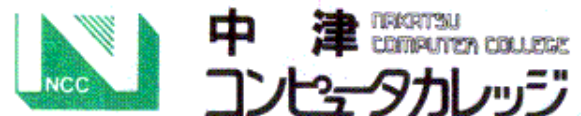
● 情報システム科……30名

● 情報ビジネス科……40名

■ 応募資格

高等学校卒業生又は、同等以上の学力を有する者。

地域社会の発展をサポートする



理事長(中津市長) 新貝 正勝

大分県中津市大字下池永83番地の1

● 国道10号線より入口案内掲示あり

TEL 0979-22-1122(代) FAX 0979-22-1135

第12回 サウズコンテスト ON THE COMPUTER 開催

日時:2004年1月24日(土) 13:30~16:30 会場:大分市オアシスひろば21地下映像小ホール

第12回を迎えた「サウズコンテスト On The Computer」は、1月24日(土)に大分市オアシスひろばの地下1F映像小ホールで大盛況のうちに開催されました。

今回の目玉企画は何と言っても、大分フットボールクラブの協賛による、大分トリニータ応援歌部門の新設でした。この新企画が好評だったこともあり、応募曲数は全50曲、その中から予備審査を通過した17曲で本審査を行う、という近年にない規模の審査会となり、会場は熱気に包まれました。

その激しい競争を勝ち抜き、見事グランプリに輝いたのは市内放送局にお勤めの住田沙織さんの作品「Sounds Talk」、若々しい感性に溢れ、音楽的にもバランスの取れた仕上がりで審査会議でも文句無しの満場一致でした。グランプリの住田さんには賞金3万円が贈られました。トリニータ部門の最優秀賞は橋本一彦さんの「TRINITA oh! We love you」、サンバ調の軽快なリズムに「ト・リ・ニータ!」のかけ声も入れやすい明るい曲調がマッチして素晴らしい出来映えでした。この曲は向こう一年間、ビッグアイで開かれるトリニータ戦のBGMとして流される予定です。年間ペアチケットなどの豪華賞品も手にした

橋本さんは、日頃のクールなミュージシャンのイメージとは違って、喜色満面でした。実は橋本さんは県外にまで名の知れた、腕利きのジャズ・ベースマンなのです。またコンピュータミュージックにも大変熱心で、過去2回、当コンテストのグランプリも取ったことのある方でした。

当コンテストも12回目となり、デジタル機器、作曲ソフトなどの技術的環境も最初の頃から比べると信じられないほどの進展を見せています。そんな中で、今や全国的にも数少なくなったアマチュア対象のコンピュータミュージック発表の場としての当コンテストは、時代のニーズと、ITと音楽が好きの人たちの要望を踏まえながら、新しい時代に向けて大きく生まれ変わろうとしています。

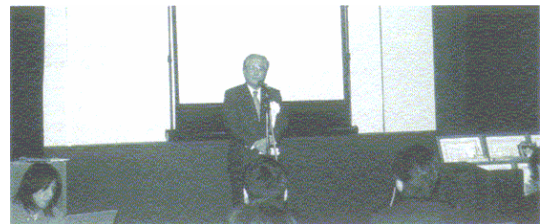
応募曲についても、唄入りは駄目なのか、生楽器とのコラボレーションはどうか、という問い合わせが年々増えてきています。今後のサウズコンテストの方向を定める意味でも大いに議論の余地のあるところでしょう。まだアイデアの段階ですが、デジタル音源を曲のどこかに使っていればあとは自由にするとか、可能であれば本審査当日の生演奏を認めることなども検討してみたいと思います。

最後になりますが、今回も各社様から多くの賞品提供をいただき、誠にありがとうございます。紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

なお、今回のグランプリ曲の「Sounds Talk」、および前回のグランプリ曲につきましては、下記のアドレスよりダウンロードして試聴できます。多数の方のアクセスをお待ちしています。

<http://www.oisa.jp/sounds/>

(イベント委員会)



郷司会長の挨拶



グランプリの住田さん

■入賞者 (敬称略)

種別	氏名	年齢	地区	タイトル	副賞
グランプリ	住田沙織	24歳	大分市	Sounds Talk	大分交通賞・富士通大分ソフトウェアラボトリ賞
オリジナル曲部門1位	奈方雪之利	31歳	大分市	おもいで	エフエム大分賞・オーイーシー賞・九州東芝エンジニアリング賞・総合技術工学院賞
オリジナル曲部門2位	和田彰三	42歳	大分市	エレキテル	新日鉄ソリューションズ賞・富士通大分ソフトウェアラボラトリ賞・KCS大分情報専門学校賞
オリジナル曲部門3位	福田佳佑	18歳	大分市	Huge Split	総合技術工学院賞・中津コンピュータカレッジ賞
編曲部門1位	望月陽一郎	40歳	大分市	get it on now	ゴードービジネスマシン賞・西日本電信電話賞
編曲部門2位	指原隆	50歳	挾間町	アニーローラー	KCS大分情報専門学校賞・総合技術工学院賞
トリニータ応援歌部門最優秀賞	橋本一彦	44歳	大分市	TRINITA oh! We love you	トリニータ賞・大銀コンピュータサービス賞
トリニータ応援歌部門優秀賞	大野タカ&GIRS		大分市	誇れるもの胸に刻め	トリニータ賞・トキハ賞
トリニータ応援歌部門優秀賞	APPLE O'CLOCKS		大分市	星に願いを	トリニータ賞・トキハ賞

■審査委員 (敬称略)

氏名	審査歴
審査委員長 田村洋彦	8回目
大分大学教授(音楽科) 九州作曲家協会会長	
審査委員 郷司 潔	5回目
大分県情報サービス産業協会会長 (株オーイーシー)	
審査委員 星芝 貴行	3回目
日本文理大学講師(情報メディア科)	
審査委員 久保田栄子	2回目
作曲家	
審査委員 古澤 信二	1回目
(株大分フットボールクラブ 総務企画部長)	

フレッシュさん紹介 今後ともよろしくお願いたします。

専修学校
総合技術工学院
広報部

村上 明子

趣味: テニス、書道
好きな言葉: 天は自ら助くる者を助く



(株)アトムス
事務器営業部

明石 直樹

趣味: ドライブ、読書
好きな言葉: 誠心誠意



(株)日建コンサルタント
SIT事業部

橋本 哲男

趣味: 酒の肴作り
好きな言葉: シンプルイズベスト



広報委員会からのおしらせ

OISA newsでは、次号より「新任者紹介」のコーナーを新設することになりました。転勤や転任などで新たにOISAに関わるようになった方ならどなたでもかまいません。自薦、他薦を問わず、希望される方は広報委員会までお知らせください。

OISA News

2004. 3. 24発行

発行: 大分県情報サービス産業協会

会長 郷司 潔

<http://www.oisa.jp/>

編集: 広報委員会

事務局: 大分市城崎町2-6-31

(大銀コンピュータサービス(株)内)

TEL (097) 537-5918

FAX (097) 534-4545

印刷: 佐伯印刷株式会社

技術の総合学院

募集学科

高度情報処理学科(3年20名) 医療ビジネス学科(3年20名)
情報処理学科(2年20名) 環境デザイン学科(2年20名)
情報デザイン学科(2年20名) インテリアデザイン学科(2年20名)
情報通信ネットワーク学科(2年20名) リフォームデザイン学科(2年20名)
情報無線ネットワーク学科(2年20名) CADデザイン学科(2年20名)
情報ビジネス学科(2年20名) ITセレクト学科(1年20名)

〒870-0037 大分市東春日町51番3
URL <http://www.ivy.ac.jp>

TEL (097) 537-2471

就職と資格の **IVY** です。

未来を自分の手で創造する
即戦力として期待に応える
スペシャリストを育成。

アイビー 学校法人 善広学園 経済産業省委嘱校・総務省認定校



専門学校

総合技術工学院